



【表紙写真】

2025年は巳年ということで、白蛇日本三大聖地の一つ「蛇窪神社」へお参りに行ってきました。蛇窪はこのあたりのかつての地名で、鎌倉時代に創建された神社の境内には実際に白蛇が住んでいたのだとか。本殿のほか、白蛇弁財天、龍神社、稲荷社などもあり、みどころがいっぱい。今年一年、「小さな親切」運動に関わる皆様が幸せに過ごせるよう、しっかり祈願してきました。

蛇窪神社 (東京都品川区二葉4-4-12)

電話：03-3782-1711 (9:00～17:00迄)

最寄り駅：都営浅草線「中延」駅徒歩5分／東急大井町線「中延」駅徒歩6分／JR横須賀線「西大井」駅徒歩8分



銭洗いをして金運アップもお願いできます

読者PRESENT

蛇窪神社の「ステッカーお守り」を3名様にプレゼント!

応募方法：「氏名」「住所」「年齢」「本誌の感想」をご記入の上、FAX(03-3263-3838)または、応募フォームよりご応募ください。

締め切り：2025年3月7日(金)必着



応募フォーム

「小さな親切」誌は、季刊発行

春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2025年1月25日発行 通巻537号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866 FAX.03-3263-3838
<https://www.kindness.jp/>

印刷所 広研印刷株式会社

©無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。



明日の笑顔は自分次第

理事・浜崎恭一

「はまきききょういち(公社)東京共同住宅協会 銀座相談センター」所長

住宅販売の仕事を通じてお客様の気持ちに寄り添うことを心がけてきました。趣味はランニング、ソウルダンス、映画鑑賞。座右の銘は「一期一会」。

役員リレーエッセイ

「徒然なるままに」

皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

先日、作文コンクールの受賞作品を読んでいて、自分が小学校4年生のときに書いた作文を思い出した。『親切をモットーに』のタイトルの作文で、とある団体の賞を取り新聞に載った。新聞社からは副賞として人生初の万年筆を頂き、今でも大切に保管している。

作文にはクラスの中ではおとなしく、目立たなかったA君が風邪で10日間ほど休み、学級委員だった私が様子を見に行ったときのことを書いた。そのときの私は、自分よりA君の家に近い人もいし、あまり親しくない自分が行っても喜ばれない上、玄関で帰される事もあるのではと、委員とはいえ、引き受けてしまったことを後悔していた。しかし、思い切って訪ねると、お母さんから「この子は病弱で、これまで友達が家に来たことがなかった。こんなに楽しそうな姿を見た事がない」と言われ、帰りにお菓子を山ほど頂いた。事情を知った私は、後日彼が欠席したとき、今度は自分の意志で授業のノートと一口アイスを持参して訪問し、一緒にかかるたやトランプをして遊んだ。

実は担任の先生から、A君がクラスに馴染んでいないことが気になっていて、私なら何か彼が変わるきっかけとなる刺激を与えられるのでは、と思っていたと聞かされた。誰かに親切にすることは簡単なことだが、いろんな想いで躊躇する人が多い。周りの目が気になること、相手が喜んでくれなかった場合には、恥ずかしさなどの感情がこみ上げる。でも、相手が笑顔になったときに、自分の喜びにもつながる……。当時の作文には、そんなことが綴られていた。

今改めて思い返すと、小学4年生の時から「親切」というフレーズにご縁があったのかと驚いている。30年ほど前の同窓会でA君と話す機会があり(相変わらずおとなしかったが(笑))、あの日のことは私以上にはっきり覚えていて、「人生の大切な思い出の一つ」とまで言ってくれた。

小さな親切、大きなお世話」という言葉があったが、私にとって「親切」とは、一方通行ではなく、お互いに心温まりハッピーな気持ちになれるものだと思う。人は多くの人と出会う。それが良い出会いとなるか、悪いものになるかは自分の心次第。いつまでも残したい良い出会いにする為に私は、意識的に「自分はずいてる・づいてる・また良い出会いがあった」と思うように心がけている。すると自然と笑顔になり、出会いを楽しめる。

能登半島地震から1年・東日本大震災から14年・阪神淡路大震災から30年。いろいろな想いで新年を迎えていらっしゃることでしょ。読者の皆様にエールを送り、結びとします。

「明日はきっと、いいことが待っている」